

福田昌子のことばに関する研究 — 純真短期大学創立者の思い —

松尾麻紀⁽¹⁾、徳安敦⁽²⁾、渡部明⁽²⁾、田中美江⁽²⁾

A Study on Masako Fukuda's words — Mind of Junshin Junior college founder —

By

Maki MATSUO・Atsushi TOKUYASU・Akira WATANABE・Yoshie TANAKA

目次

- 1 はじめに
- 2 研究の目的と方法
 - 2-1 目的
 - 2-2 方法
- 3 福田昌子のことばに関する年表
- 4 卒業アルバム（純真高等学校・純真短期大学）と福田昌子のことば
- 5 福田学園新聞と福田昌子のことば
 - (1) 第2号「70年代の若人に期待」
 - (2) 第3号「飛躍への踏み台」
- 6 その他の資料
 - (1) 純真紀要創刊号「発刊にそえて」
 - (2) 純真短期大学学生便覧（1970年）「学園設立の目的」
 - (3) 純真短期大学学生便覧（1970年）「教育方針 学園訓に鑑み」
 - (4) 純真高等学校生徒手帳「創立者の願い」
- 7 おわりに

受理日 平成26年12月5日

- (1) 純真短期大学こども学科 准教授
- (2) 純真短期大学こども学科 教授

1 はじめに

1957年に、福田昌子によって設立された純真短期大学は、現在、食物栄養学科とこども学科の2学科で構成され、いずれも、人間の幸福のために寄与する人物を、専門の分野から育てるという使命を持って取り組んでいる短期大学である。その教育方針や教育目標には開学以来、創立者の思いが脈々と流れている。その思いが表れていると思われる、創立者の言葉を収集、整理し触れることにより、信念を持って歩を進めることができるものとする。今回、新しく目にする機会に恵まれた多くの言葉が、新鮮な感覚を与えてくれた。そして、前に歩を進める勇気を今後とも与えてくれる力になってくれるものであると期待する。

2 研究の目的と方法

2-1 目的

1975年12月に創立者福田昌子先生が逝去された後は、当然のことながら直接的に思いを聞くことができなくなった。建学にあたっては、創立者の熱い思いがあったであろう。そこで、創立者の願いや思い、息づいたことばに触れるために、基礎的な資料の収集と整理を行い、この後に続く研究に資することを目的として本研究に取り組む。

2-2 方法

これまで、福田昌子のことばは、あまり体系的に整理されてきていない。そこでまず、純真学園内に所蔵されている書物等から福田昌子のことばの収集を行い、次に、そのことばに対して年譜的な整理を行った。中心となったものは、純真女子高等学校（現純真高等学校）及び純真女子短期大学（現純真短期大学）の卒業アルバムに書かれていた創立者のことばと福田学園（現純真学園）新聞に書かれていた創立者のことばである。なお、純真女子高等学校は1968年に東和大学附属東和高等学校、2007年に純真高等学校へ、純真女子短期大学は2007年に純真女子短期大学へ校名変更があったが、現校名の純真高等学校、純真短期大学の表記で統一する。

3 福田昌子のことばに関する年表

1975年（昭和50年）に逝去されるまでの言葉を中心に、年表を作成した。

福田昌子のことば年表

西暦	和暦	著書・ことば等	著者等	出版社等
1948年	昭和23年	優生保護法解説	谷口彌三郎 福田昌子	研進社 昭和24年再販本

1950 年	昭和 25 年	誘拐事件に関する発言	福田昌子	国会法務委員会
1951 年	昭和 26 年	私達の生活と政治	福田昌子	
1953 年	昭和 28 年	私の靈魂観	福田昌子	大法輪 20
1959 年	昭和 34 年	発刊にそえて	福田昌子	純真紀要 創刊号
1961 年	昭和 36 年	うきことの・・・	福田昌子	純真高等学校卒業 アルバム
1969 年	昭和 44 年	人生 憂いあれば・・・	福田昌子	純真短期大学 卒業アルバム
1970 年	昭和 45 年	70 年代の若人に期待	福田昌子	福田学園新聞
1970 年	昭和 45 年	飛躍への踏み台	福田昌子	福田学園新聞
1970 年	昭和 45 年	仕事ハ自から・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
1970 年～ 72～	昭和 45 年 ～47～	わが道を歩め・・・	福田昌子	純真短期大学 卒業アルバム
1970 年～	昭和 45 年	学園設立の目的		純真短期大学 学生便覧
1970 年～	昭和 45 年	教育方針 学園訓に鑑み		純真短期大学 学生便覧
1971 年	昭和 46 年	一日に一度ハ・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
1972 年	昭和 47 年	わが道を歩め・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
1973 年	昭和 48 年	人にかつより・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
1974 年	昭和 49 年	幸せとは心の・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
1976 年	昭和 51 年	幸せとは心の・・・ わが道を歩め・・・	福田昌子	純真高等学校 卒業アルバム
～現在	～現在	創立者の願い		純真高等学校 生徒手帳
1998 年	平成 10 年	じゅんしん幼稚園	元幼稚園職員	福田学園 40 年誌

4 卒業アルバム（純真高等学校・純真短期大学）と福田昌子のことば

卒業アルバムから拾い出すことができた福田昌子のことばを、経年的に整理を行った。
残念ながら空白の年があるが、今後の調査で明らかにしていきたい。

① 一覧表

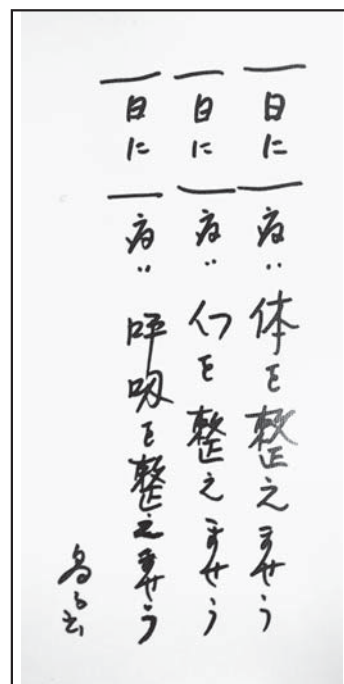
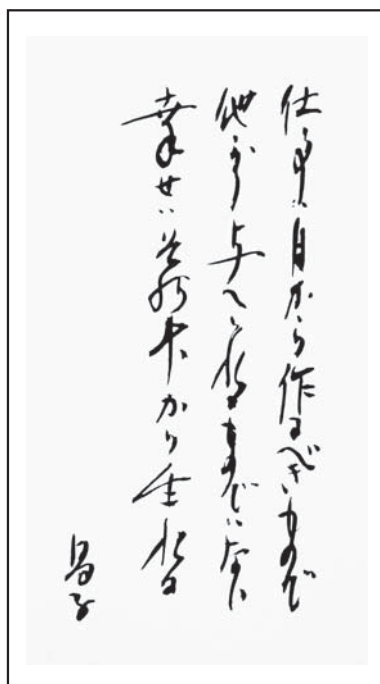
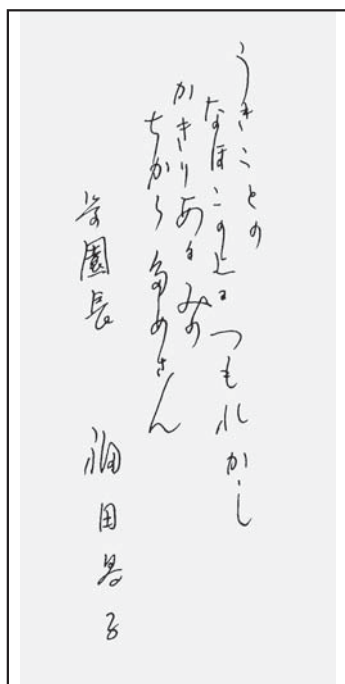
純真高等学校卒業アルバム

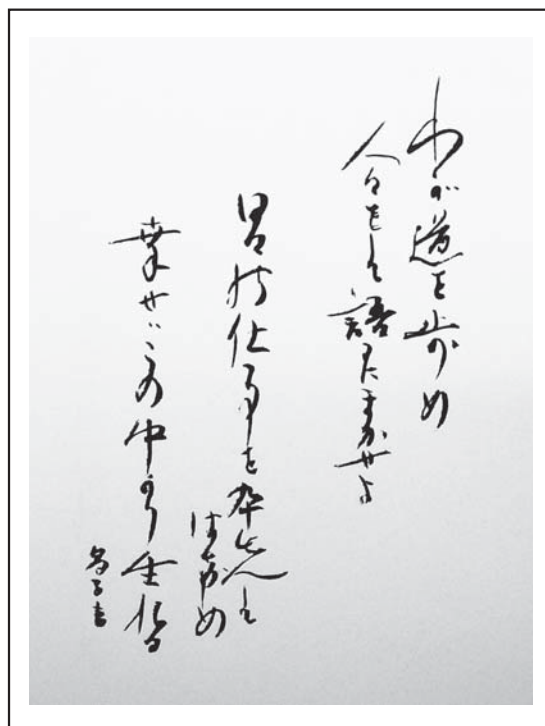
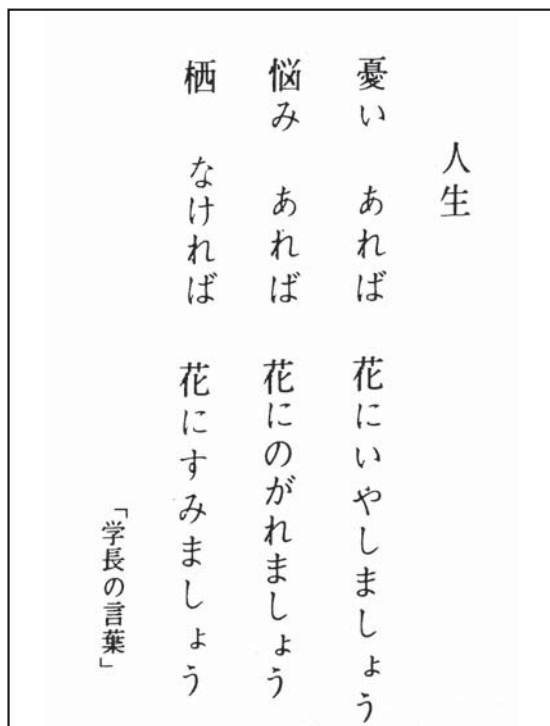
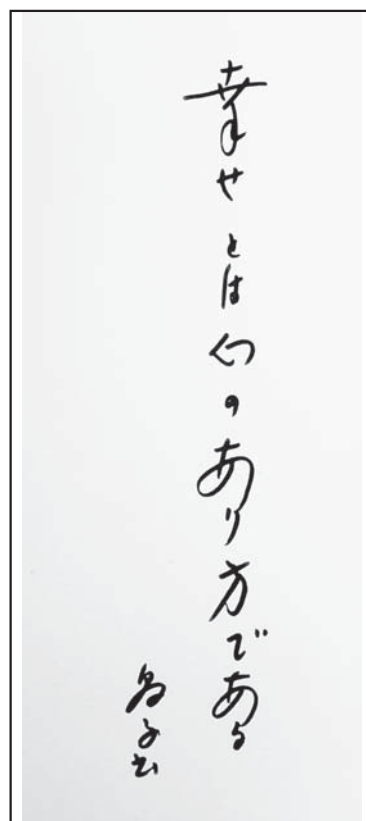
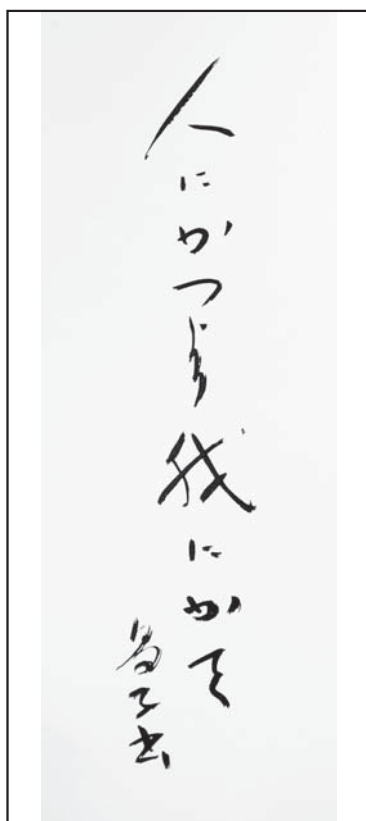
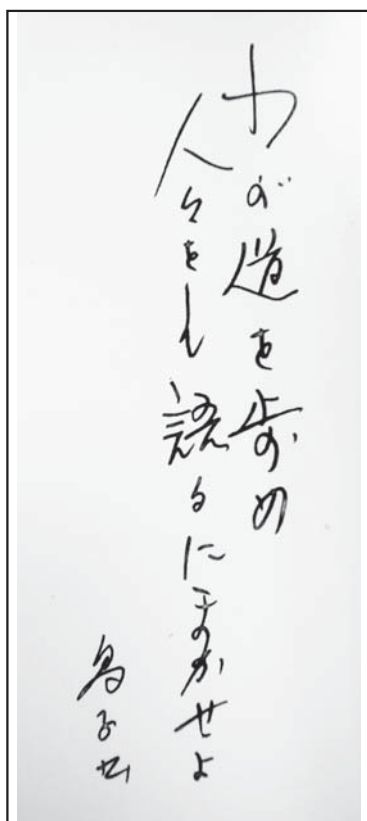
西暦	和暦	ことば
1961 年	昭和 36 年	うきことの なほこの上に つもれかし かぎりあるみの ちから ためさん
1970 年	昭和 45 年	仕事ハ自から作るべきもので 他人から与へられるものでハない 幸せハその中から生れる
1971 年	昭和 46 年	一日に一度ハ体を整えませう 一日に一度ハ心を整えませう 一日に一度ハ呼吸を整えませう
1972 年	昭和 47 年	わが道を歩め 人々をして語るにまかせよ
1973 年	昭和 48 年	人にかつより我にかて
1974 年	昭和 49 年	幸せとは心のあり方である
1975 年	昭和 50 年	※12 月 30 日に逝去される
1976 年～	昭和 51 年～	幸せとは心のあり方である わが道を歩め 人々をして語るにまかせよ 日々の仕事を率先してはげめ 幸せはこの中から生れる

純真短期大学卒業アルバム

西暦	和暦	ことば
1969 年	昭和 44 年	「人生」 憂い あれば 花にいやしましょう 悩み あれば 花にのがれましょう 栖 なければ 花にすみましょう
1970 年～	昭和 45 年～	わが道を歩め 人々をして語るにまかせよ 日々の仕事を率先してはげめ 幸せはこの中から生れる

② 原文





5 福田学園新聞と福田昌子のことば

福田学園新聞（純真図書館に所蔵）に載せられている福田昌子の文章は、福田昌子の教育理念や思想、教育の目標や方法に直接的に触れることができる内容である。福田昌子と繋がっているものに、大きな勇気と温かな励ましを与えてくれる貴重なものであると考える。

（1） 第2号（1970年1月25日）

「70年代の若人に期待」 理事長 学長 福田昌子

新年おめでとうございます。

さて、新春に当たって人間形成の教育理念にふれてみたい。

国内的に見れば70年代は繁栄の時代、経済はますます発展し、科学はいよいよ進み、文化や生活はより豊かに明るくなるでしょうし社会の情報化もますます進み、その迅速適切な処理が一層要求されて来るでしょう。然し一方、青少年の凶悪な犯罪も相かわらず増加し、実に暗い気持ちに襲われます。

ひるがえって、国際的には、極東で72年沖縄返還が本極りして、ベトナムの戦火も終息への道をたどっているし、アメリカの対中国策も昨年末から緩和の兆しをみせはじめています。

西欧ではEEC（欧州経済共同体つまり経済連合同盟）が多年否定し続けてきた英国の加盟容認の見通しを打ち出しています。

東西両陣営の対立も雪どけをみせています。こうした明るい反面、中東地域、アフリカ、中南米ではイザコザが絶えず時に戦車が火を吐き、飛行機を乗っとり、国境侵犯まで起こして、まことになげかわしい事態が続いています。

この明暗の現状を踏まえて、教育の現状をみるとき、制度の改革も緊急必要であるが、戦後の教育に忘れられかけた人間形成の教育理念の再確認を痛感します。

科学技術、経済知識、組織を動かし管理する生産技術、一般の社交術、それらは今後ますます重要になるでしょう。だが、知識のための知識、技術のための技術が人間性を忘れて、技術や職業の専門分化がそのまま人間を人格分裂に導いて行く危険性もなしとしない。それ故にこそ今日の教育で最も肝心なことは、何よりも人間性豊かな良識ある人を育てることであるといえます。

人間らしい生き方とは、広く豊かな教養を身につけ、社会を、文化を、生活や環境を高い立場から総合的に見ることの出来る知性を持ち、知識として頭で理解するだけでなく、身体でおぼえ、態度で表現することです。そしてまず己れに厳しくなければならない。

いまや学問そのものも、専門化と同時に総合化への転換期に立っている。本学が知性の獲得、技術の修練と同時に情操を高め、強い意志の養成を目指しているゆえんはここにあります。

広く深い社会的視野に立って何千年と続いた日本の心のふるさとを尋ね、しかも近代科学の進歩におくれず、鋭い判断力と分析力によっていたずらに他人の言動に附和雷同せず、

各自がそれぞれの長所を生かす根性の人間になってほしい。世の中に役立つ人間に育ってほしい。

社会の進歩変遷はいよいよ激しくなり、大波小波はこんごも続くでしょう。月のつぎには火星到達に実現するでしょうが、上を見るだけでなく、しっかり大地に足をふんばり、信念を持って社会に奉仕貢献するわが道を求め、それぞれが『ここに私の行く道がある』と胸を張って進んでほしい。

70年代の若い学生諸君に私は限りなく大きな期待をかけています。

(2) 第3号(1970年5月16日)

「飛躍への踏み台」 学園理事長 福田昌子

学園を創立して本年で十五周年になる。もうそんなになるのかと月日の経つのが非常に短かったようでもあるし、創立のころのいろいろな出来事を思い浮かべようとすれば、はるか昔の事であったような気もする。

十五年といえば、その年に生まれた赤ちゃんは本年は高校一年生である。

十五年前本学園の高等学校に入学された諸姉は本年満三十歳になられる。いまはよき家庭の人となり、お子さまも何人かおられる人たちもあろう。

高校創立のころは学園も筑紫丘の一角を切り拓いたばかりで、いまの学園地の半分は直径20㍍もある杉や雑木の繁った自然林であった。あらかれのち、女子短期大学の校舎が建ち、中学校や幼稚園ができさらに東和大学ができた。自然林は切り払われ、ブルドーザがうなりを立てて山を削り、低きを埋めて運動場が出来あがり、九階建の鉄筋校舎が完成したのは開学十余年を経た昭和四十二年のことであった。

あわただしい十五年であったが、本学の土台がやっとできあがった。いうなれば草創期の十五年であり、これから第二期の発展期に入る段階である。

学問の進歩発達に最終がないように、学園の生長にも最終はない。どこまでも発展して行くべき性質のものであるが、それなりに、いくつかの区切りをつけることもまた大切である。

こうした意味で本年、学園創立十五周年記念行事をすることにした。来年は純真女子短期大学の創立十五周年に当たり、東和大学も創立五周年になる。本年の学園十五周年は来年の女子短期大学、東和大学の創立五周年行事の前奏曲である。一連の行事の第一歩にしたい。

本学の教育方針は、いまさら言うまでもないことであるが、新しい知識を修得させ、豊かな情操を身につけさせるにあるが同時に人間形成に重点を置き、社会の役に立つ若人の養成をめざしている。

幸い本学園を巣立った人々―高校を出た人たちも女子短期大学を出た人たちも、みんな、いまでは社会から非常な歓迎をうけ、立派な社会人として活躍してられる。卒業生諸君、諸姉各自の努力と精神のたまものであるが、十五年間教育にたずさわってきた私たちにとっても、何よりうれしいことであるとともに、また私たちの教育方針が正しかったことの証左として、いよいよ確信を深めている。

在学生諸君、諸姉も、この十五周年行事を機会に、先輩卒業生の輝やかな業績を思い起こして、全学園一丸となって勉学に、学園生活の向上にはげみ、飛躍への踏み台として決意を新たにしていきたい。

6 その他の資料

(1) 純真紀要創刊号 1959年3月

純真短期大学の研究紀要の創刊にあたって、当時の学長福田昌子を書いた文章である。

「発刊にそえて」 学長 福田昌子

紀要の発刊されることは洵に御同慶にたえません。

研究する、働く、然もそれに一生懸命夢中になっている姿は洵に美しく崇高であります、本人にとっても精神的に充ち足りた、三昧境であろうかと思ひます。

そしてその成果をまとめて発表することで、又それを読むことでお互いに 裨益するとなれば何と有難い事でせう。

更にはまた時折訪れる何とも全くやり切れない切実な精神的飢餓感がある事でも多少とも救われることがあるかも知れません。

本学園もかかる精神的かてによって多少とも文化に貢献しだんだんと発展成長して行くことを祈って止みません。

(2) 純真短期大学学生便覧(1970年)「学園設立の目的」

本学園は時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある女性を訓育する事を目的として設立されたものである。したがって、次の学園訓を掲げる。

「気品」 「知性」 「奉仕」

(3) 純真短期大学学生便覧(1970年)「教育方針 学園訓に鑑み」

① 相互に相協同しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着いた言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。

② 現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならな

い。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。

- ③ 常に研鑽途上にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく、小我を捨て、大我に徹する精神を養うことに心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

(4) 純真高等学校生徒手帳「創立者の願い」

純真高等学校の生徒手帳に、以前から掲載されているということであるが、創立者が存命中の生徒手帳にも書かれてあったかは不明である。また誰が書いたのかも不明である。

福田昌子の書いた、他の文章に出てくる文言やニュアンスに近いものがつかわれていることを考えると、少なくとも、創立者と直接的にかかわる機会のあった人の手によるものではないかと推察される。

創立者の願い

清潔で暖かく
 大らかな雰囲気の中で
 その人その人のすぐれた
 天分を伸ばし
 情操を豊かにし
 教養を高め
 博愛の精神を身につけて
 新しい時代の日本が要求する
 気品高き知性にすぐれた
 しかも真に社会に奉仕し得る
 人材を育て上げたい

7 おわりに

創立者の一つひとつのことばが、創立者の熱い思いに対するエネルギーを感じ取らせてくれるようである。人に対する温かい心情と、社会の在り方や生き方に対する強い信念や思いが伝わってくる。純真短期大学をはじめ、創立者に繋がる多くの人々の歩みに、方向を示し勇気を与えてくれる、この創立者の言葉に出会えたことは、とても大きな喜びであり、心より感謝を申し上げるところである。

またこの調査にあたって、純真高等学校長の村山敏之先生、純真学園図書館の方をはじめご協力をいただいた皆様に、この場を借りて衷心より謝意を表したい。